

幸手市立学校跡地利活用に関する市民アンケート調査報告書

1. 調査名称

幸手市立学校跡地利活用に関する市民アンケート調査

2. 調査目的

本市では、学校再編により権現堂川小学校、吉田小学校、八代小学校及びさかえ小学校が令和9年3月31日をもって閉校となります。この再編に伴い生じる跡地については、行政需要や重要施策を踏まえつつ、施設の方向性を検討しています。

学校は地域のコミュニティの場というだけでなく、地域社会とのつながりが深い施設であるため、公共施設として市が利活用するのみならず、公共・公益的団体や民間事業者等への貸付・売却をする際にも、地域の意向を十分に配慮し、地域の活性化に向けて取組む必要があります。

そのため、学校跡地利活用に対する市民の考え方などを把握するためのアンケート調査を実施しました。

3. 調査項目

No.	項目	内容
1	基本属性	性別・年齢・職業・同居している子ども・居住地区
2	学校跡地利活用方策の検討について	認知度・関心度
3	学校跡地利活用のニーズ	ニーズ・留意事項
4	民間事業者等の導入について	土地の扱い・建物の扱い
5	その他	学校跡地利活用全般に関する自由意見

4. 調査設計

- (1) 調査対象 幸手市内在住の 18 歳以上
- (2) 対象者数 2,000 人
- (3) 抽出方法 住民基本台帳からの無作為抽出
- (4) 調査方法 郵送及びインターネットによる回答
- (5) 調査期間 令和 7 年 7 月 22 日（火）～令和 7 年 8 月 22 日（金）

5. 回収結果

- (1) 有効回収数 768 件（郵送 571 件、インターネット 197 件）
- (2) 有効回収率 38.40%（郵送 28.55%、インターネット 9.85%）

6. 報告書の見方

- (1) グラフの n 又は () 内の数字は回答者数を示しており、設問の回答はすべて n を基準とした百分率（%）で表している。
- (2) 回答の比率（%）は小数点第 2 位を四捨五入しているため、数値の合計が 100% にならない場合がある。
- (3) 表中の数値は、「回答率（回答数）」を表している。
- (4) 無作為抽出のため、居住地区ごとの対象者数に差があります。

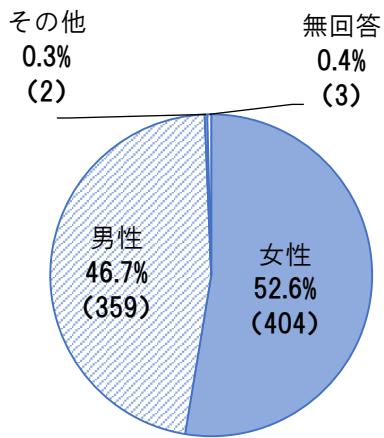
調査結果

1. 基本属性

(1) 性別

問1. あなたの性別について、あてはまるものを1つ選んでください。

n=768

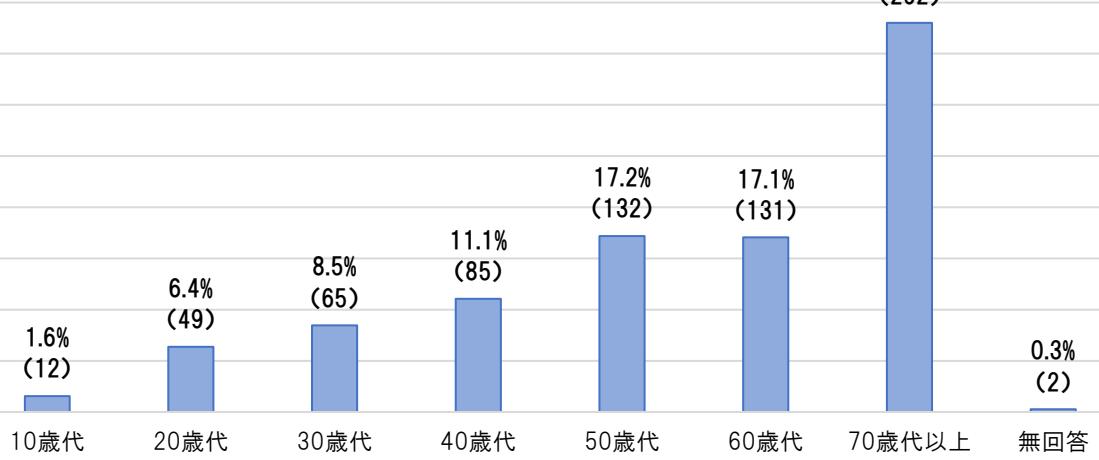


性別では、女性が「52.6%」、男性が「46.7%」、「その他」が0.3%となっている。

(2) 年齢別

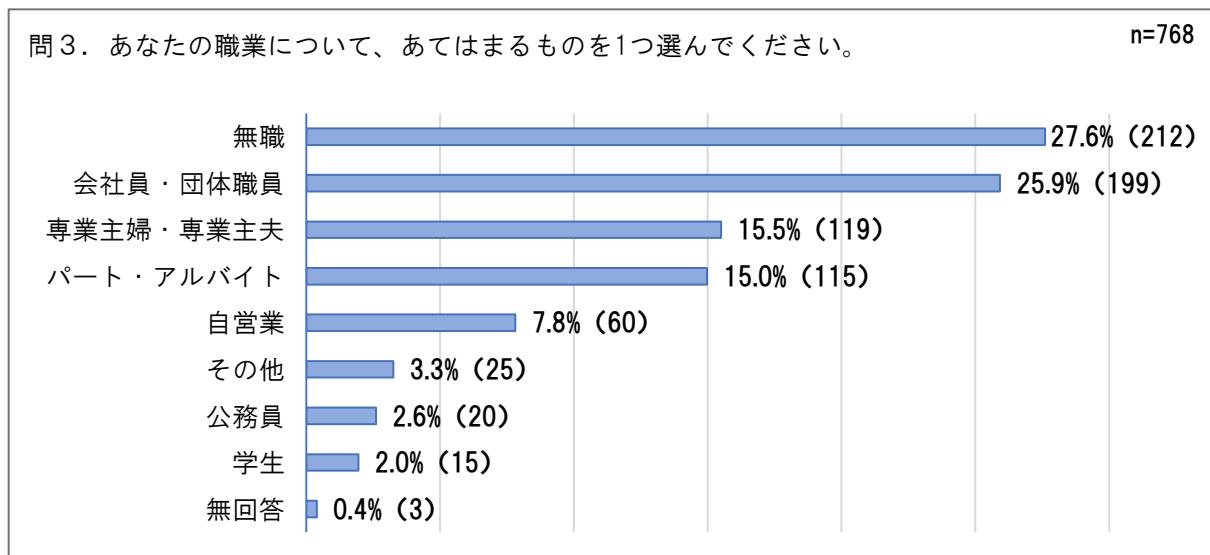
問2. あなたの年齢について、あてはまるものを1つ選んでください。

n=768



年齢別では、「70歳代以上」が38.0%となっており、他の選択肢と比較して2倍以上の回答が得られた。

(3) 職業別

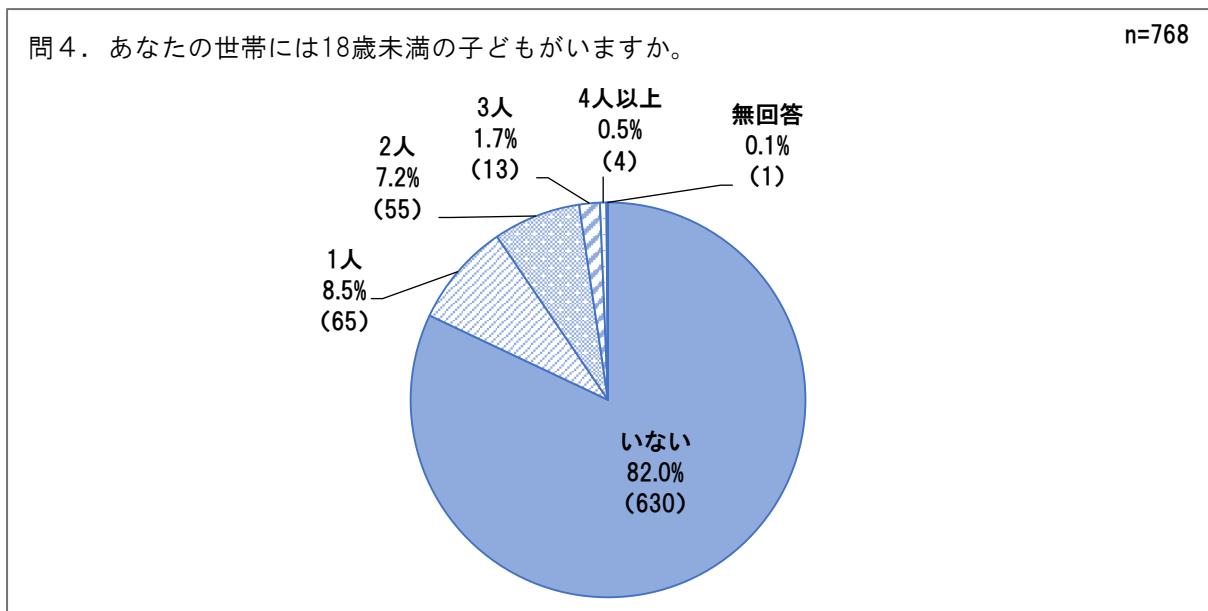


職業別では、回答率の高い順に、「無職」が 27.6%、「会社員・団体職員」が 25.9%、「専業主婦・専業主夫」が 15.5%、「パート・アルバイト」が 15.0%、「自営業」が 7.8%、「その他」が 3.3%、「公務員」が 2.6%、「学生」が 2.0% となっている。

■ 「その他」の主な内訳

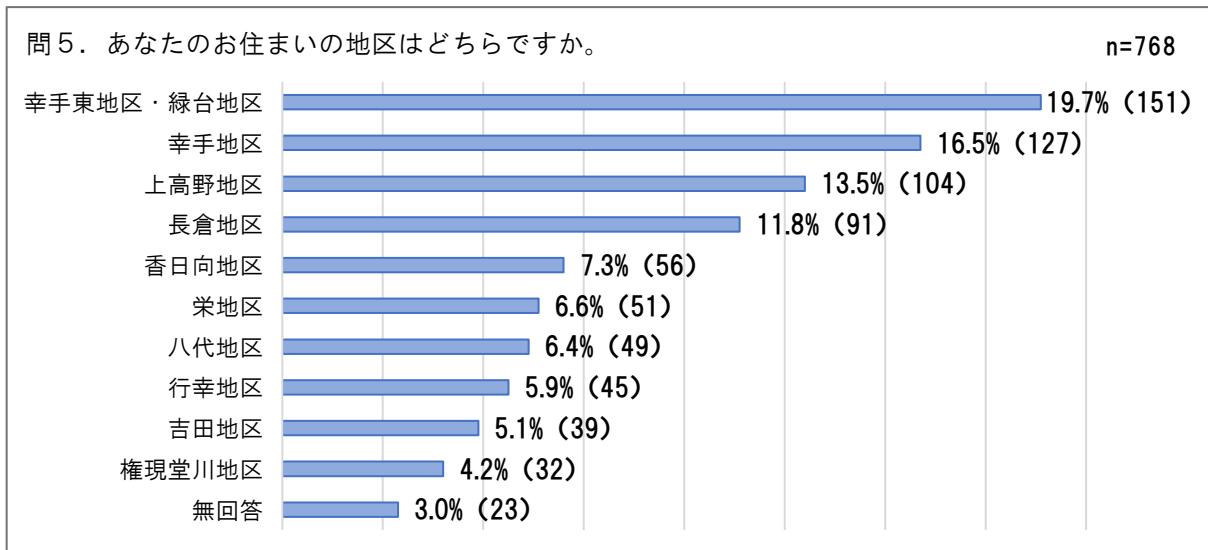
- ・農業
- ・僧侶
- ・会社役員
- ・シルバー人材センター登録
- ・契約社員
- ・介護職員
- ・年金生活
- ・週1日くらい理容師のパート
- ・医療従事者
- ・個人事業主

(4) 18歳未満の子どもの有無別



「1人」が8.5%、「2人」が7.2%、「3人」が1.7%、「4人以上」が0.5%となっており、本アンケート調査では17.9%の子育て世帯から回答を得られたことが分かる。

(5) 居住地区別

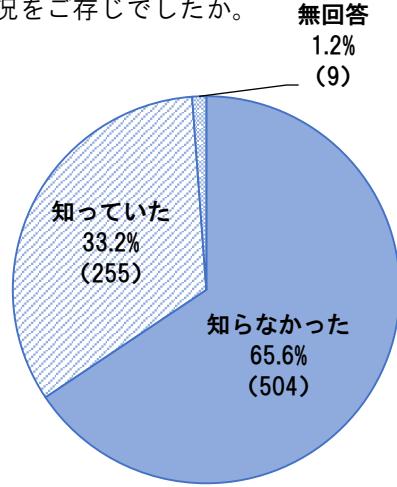


回答者の居住地区について、「幸手東地区・緑台地区」が19.7%、「幸手地区」が16.5%、「上高野地区」が13.5%、「長倉地区」が11.8%となっており、その他の地区は10%を下回っている。

2. 学校跡地利活用方策の検討について

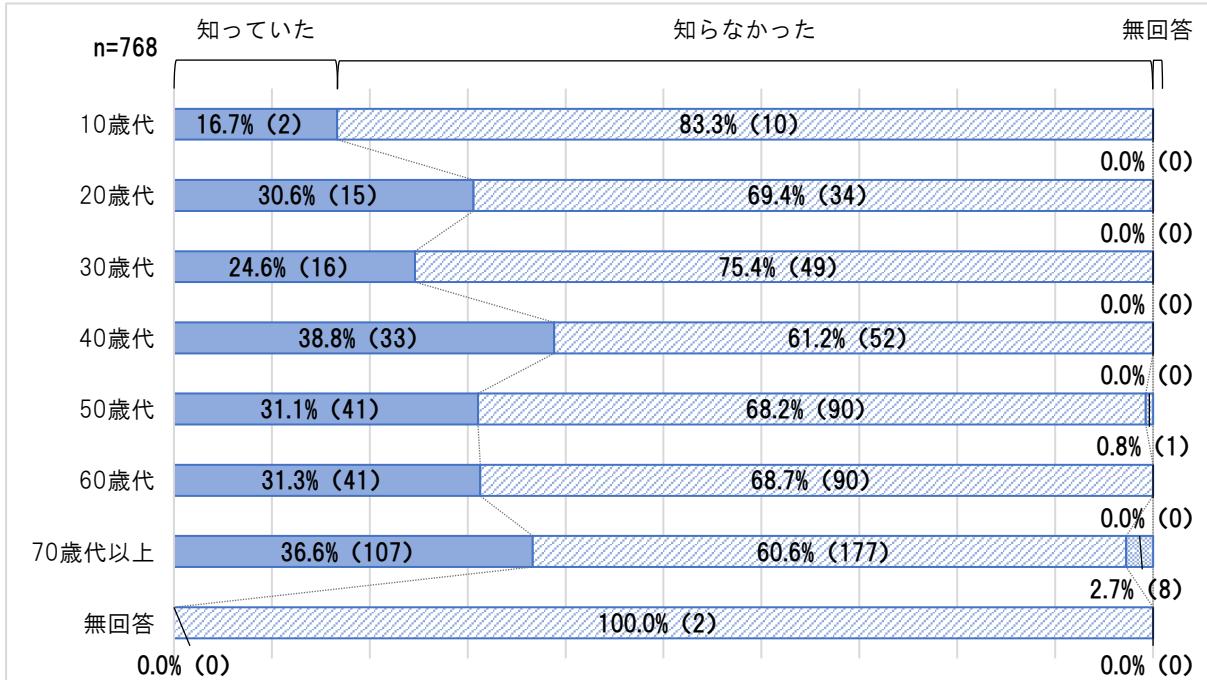
(1) 認知度

問6. 本市では、学校再編に伴い生じる跡地の有効な利活用方法を検討しています。
あなたは、このような状況をご存じでしたか。 n=768



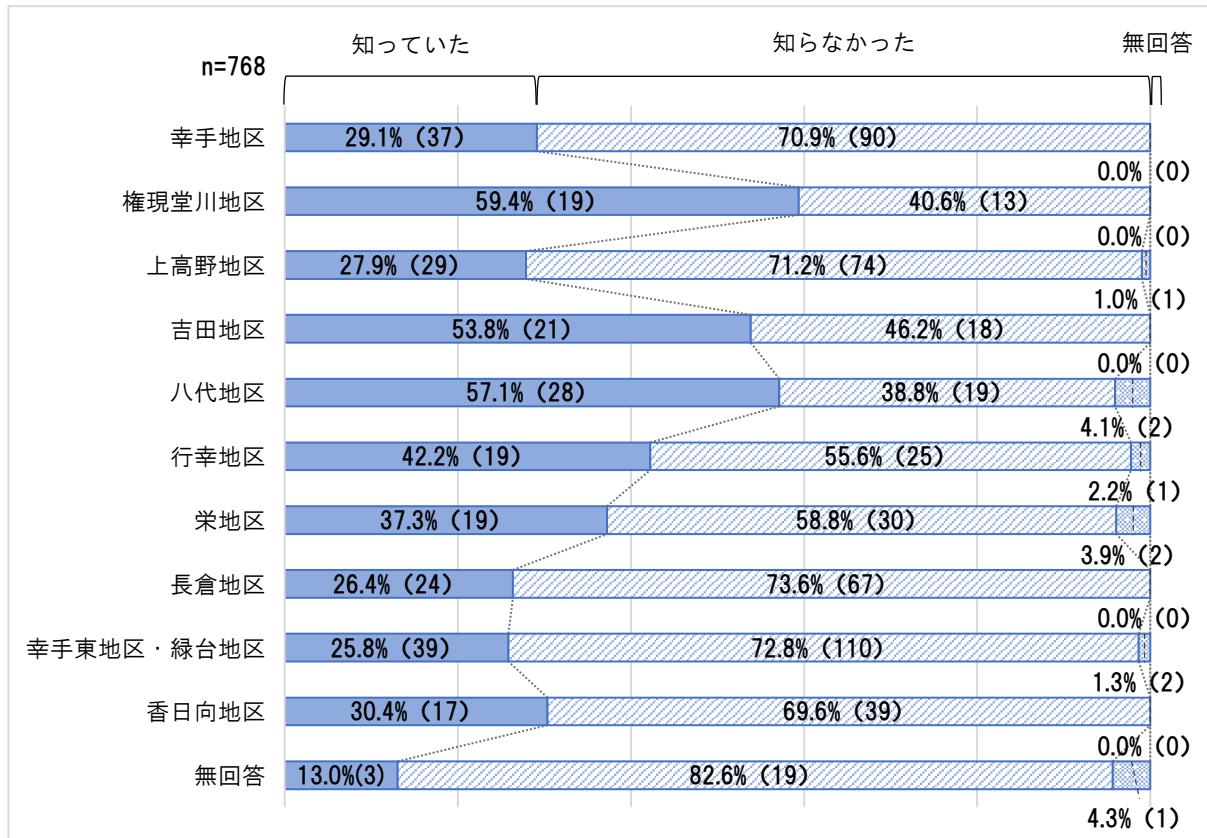
市内全体での学校跡地利活用方策の検討に関する認知度については、「知っていた」が 33.2%、「知らなかった」が 65.6% となっている。

①年齢別



年齢別にみると、どの年代においても「知らなかった」が多い。認知度が最高のは 40 歳代で 38.8% となっている。

②居住地区別

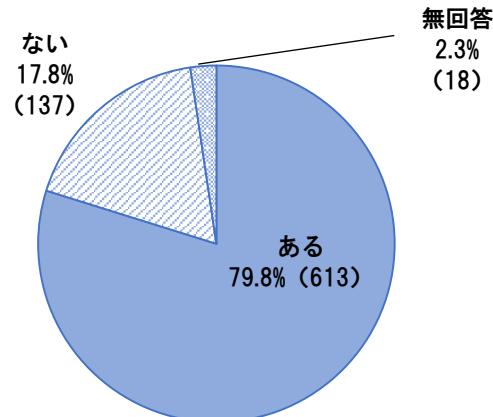


居住地区別にみると、権現堂川地区、吉田地区、八代地区での認知度が高いことが分かる。東地区の小中学校の再編が関係しているものと考えられる。

(2) 関心度

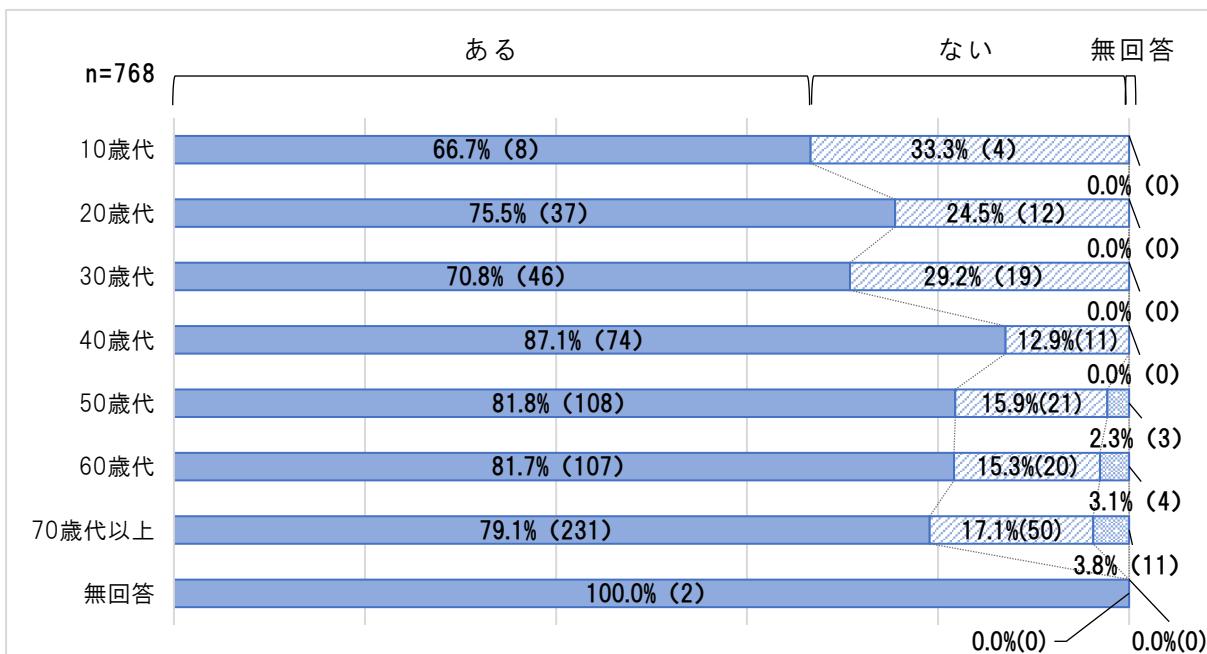
問7. あなたは、学校跡地の利活用について関心がありますか。

n=768



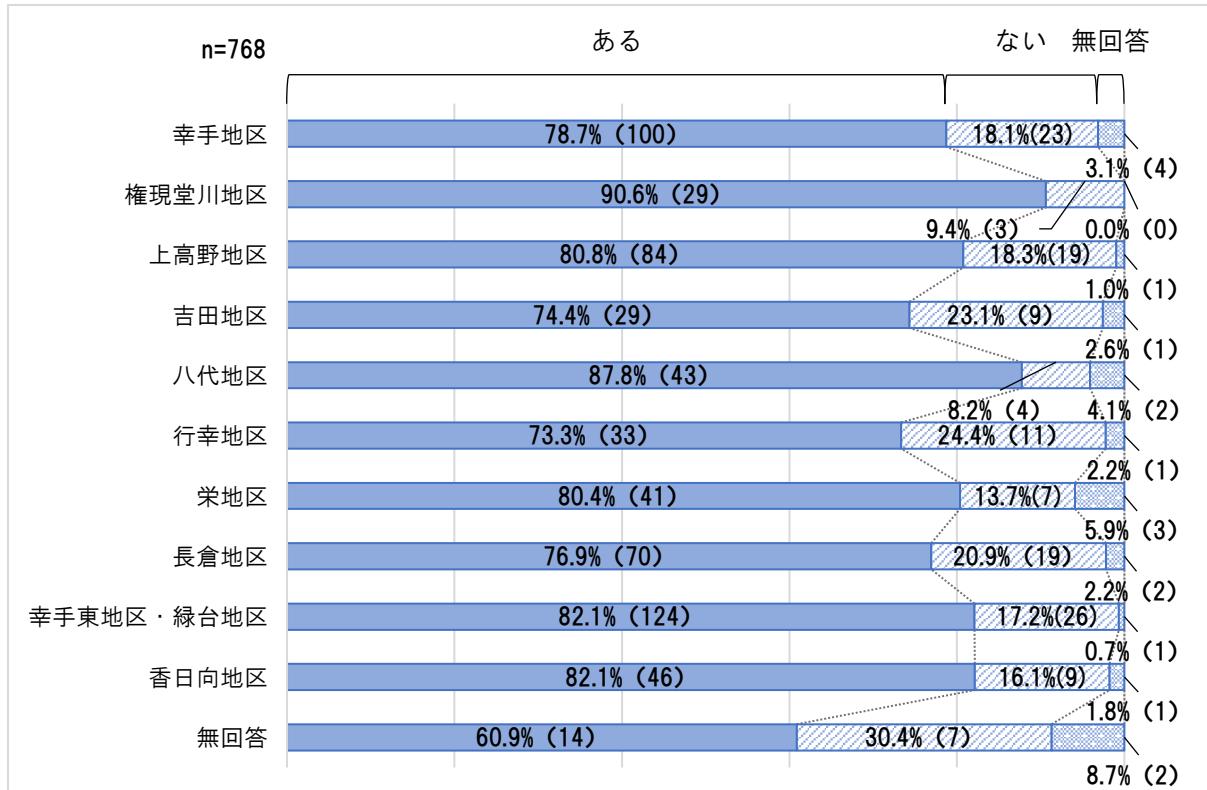
市内全体での学校跡地利活用への関心について、「ある」が 79.8%、「ない」が 17.8% となっており、約 8 割の市民が関心を持っていることが分かる。

①年齢別



年齢別にみると、どの年代においても学校跡地利活用に関心が「ある」と答えた人が半数を超えており。最も関心度が高いのは 40 歳代で 87.1% となっている。

②居住地区別

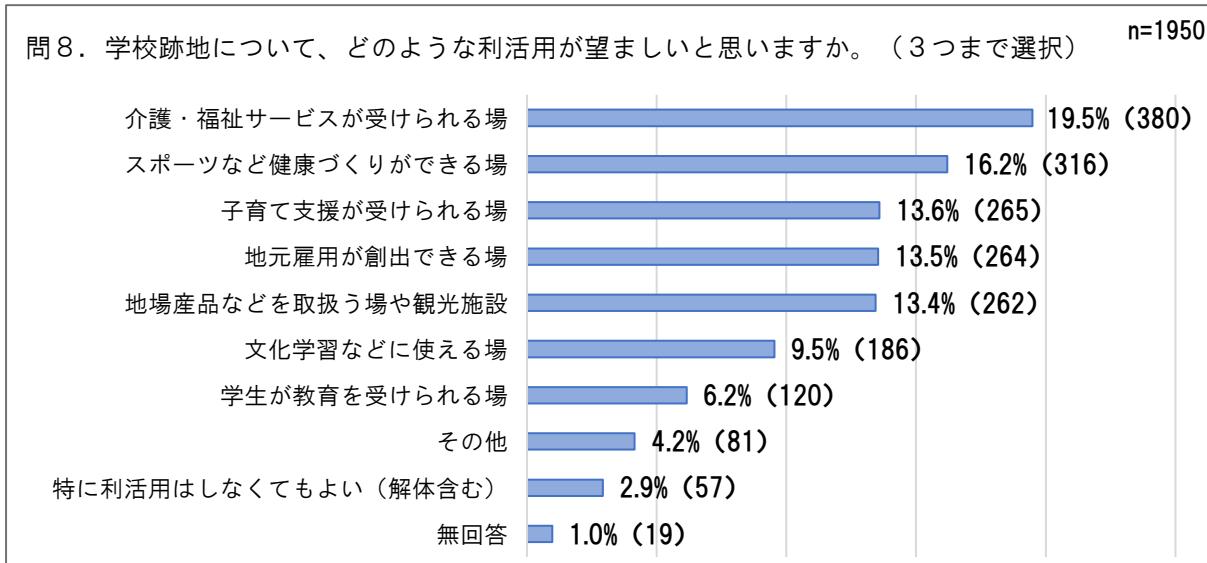


居住地区別にみると、全ての地区において、関心が「ある」が高くなっている。

中でも権現堂川地区においては、市民の関心度が9割を超えており。

3. 学校跡地利活用のニーズ

(1) ニーズ

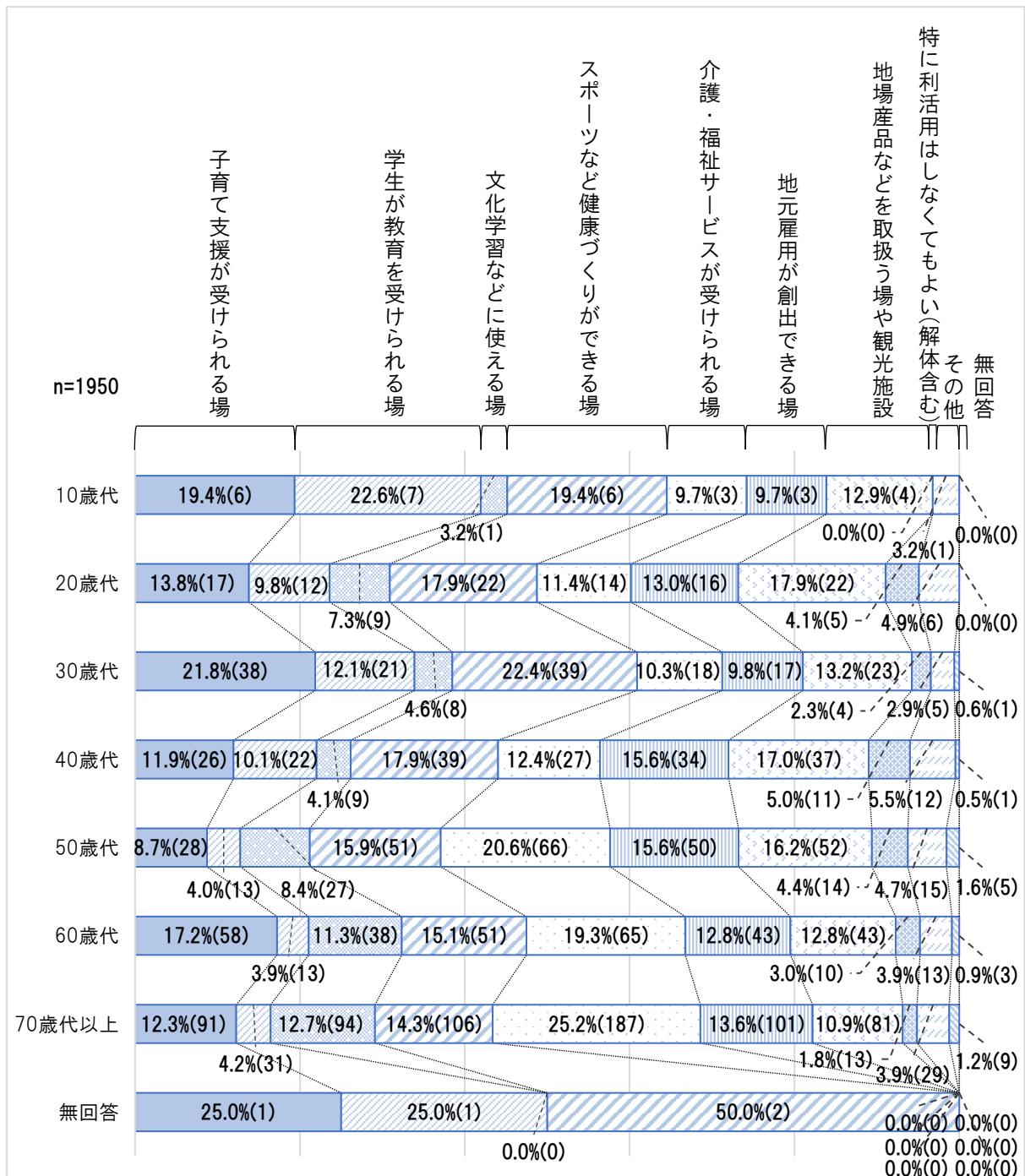


ニーズについては、「介護・福祉サービスが受けられる場」が 19.5%で最も高く、次いで「スポーツなど健康づくりができる場」が 16.2%となっている。市内全体では、福祉系施設をはじめ、雇用創出ができる施設、観光施設などの割合が高くなっている。

■ 「その他」の主な内訳

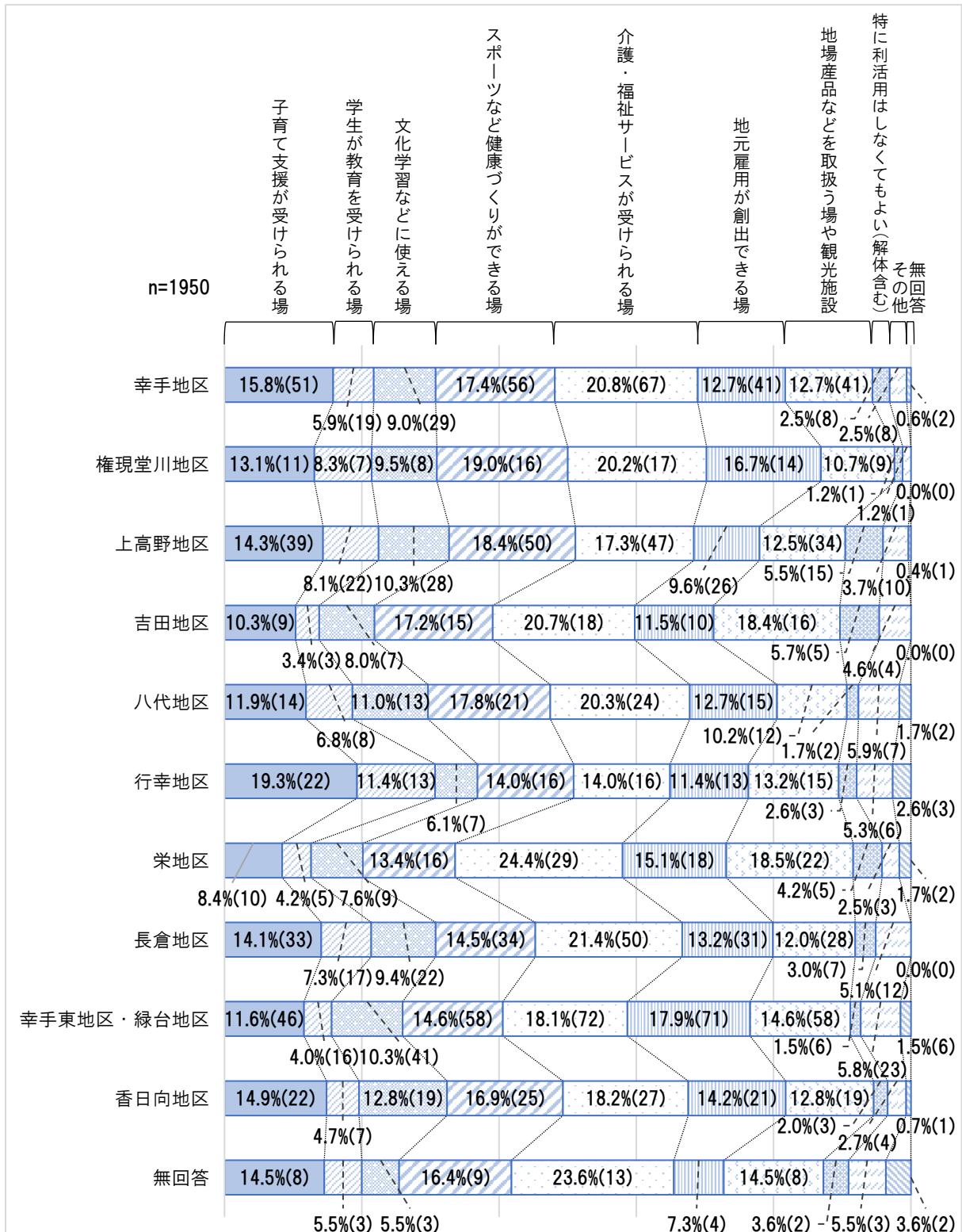
- ・大型商業施設や道の駅等の施設があると良いと思います。
- ・災害時の避難場所利用
- ・グランドゴルフ
- ・廃校を利用した宿泊施設としての利用。
- ・税支出以上の収益を生む活用方法を検討してもらいたい。極端な例で言えば、開発など民間への売却。
- ・市の税金を使わないで済む活用法。
- ・子供や大人の交流の場所、特に暑くなると、外に出る事も少なくなるため、熱中症予防として施設内の遊び場を設ける。
- ・農地
- ・地域の食材等を使った食堂やカフェなどがあったら素敵だなと思います。年齢関係なく人が集う場があると交流が深まっていいなと思います。よそからも来たい！と思うようなお店。"ここでしかできない○○！！"みたいなもの。
- ・老人ホームをたててほしい。

①年齢別



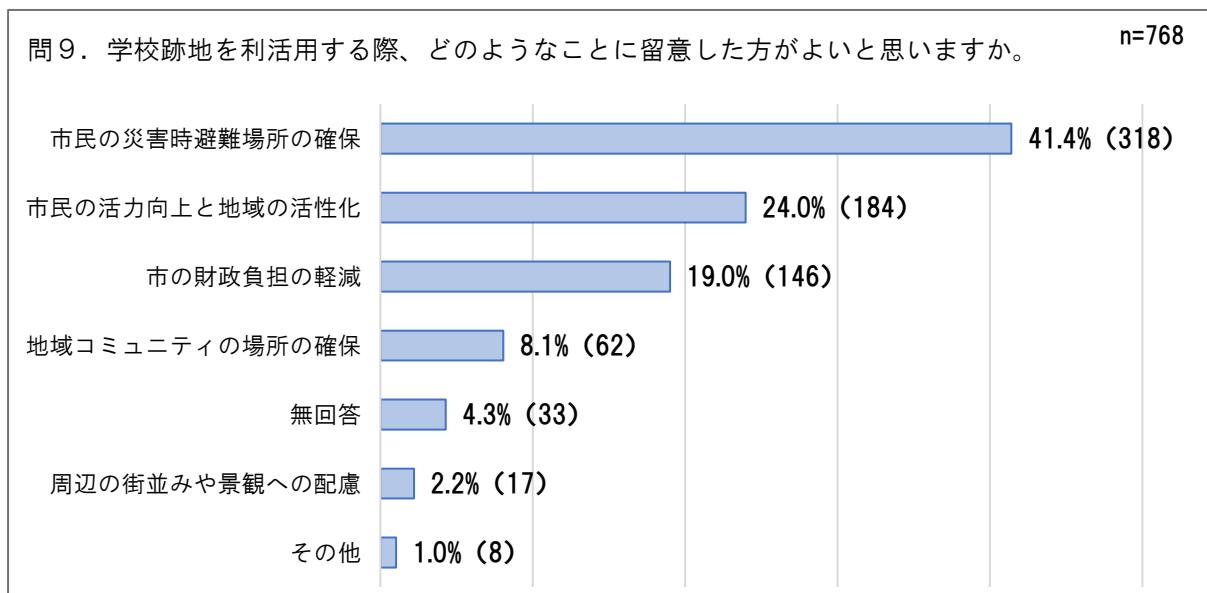
年齢別にみると、10歳代で最もニーズの割合が高いのは「学生が教育を受けられる場」で22.6%、20歳代では「スポーツなど健康づくりができる場」及び「地場産品などを取扱う場や観光施設」が17.9%、30歳代及び40歳代では「スポーツなど健康づくりができる場」のニーズの割合が高く、それぞれ22.4%、17.9%となっている。50歳代、60歳代、70歳代以上では「介護・福祉サービスが受けられる場」のニーズの割合が高く、それぞれ20.6%、19.3%、25.2%という結果になっている。

②居住地区別



居住地区別にみると、どの地区においても「介護・福祉サービスが受けられる場」が比較的高い割合となっている。ただし、上高野地区については、「スポーツなど健康づくりができる場」のニーズの割合が最も高く、行幸地区については、「子育て支援が受けられる場」のニーズの割合が最も高くなっている。

(2) 留意事項

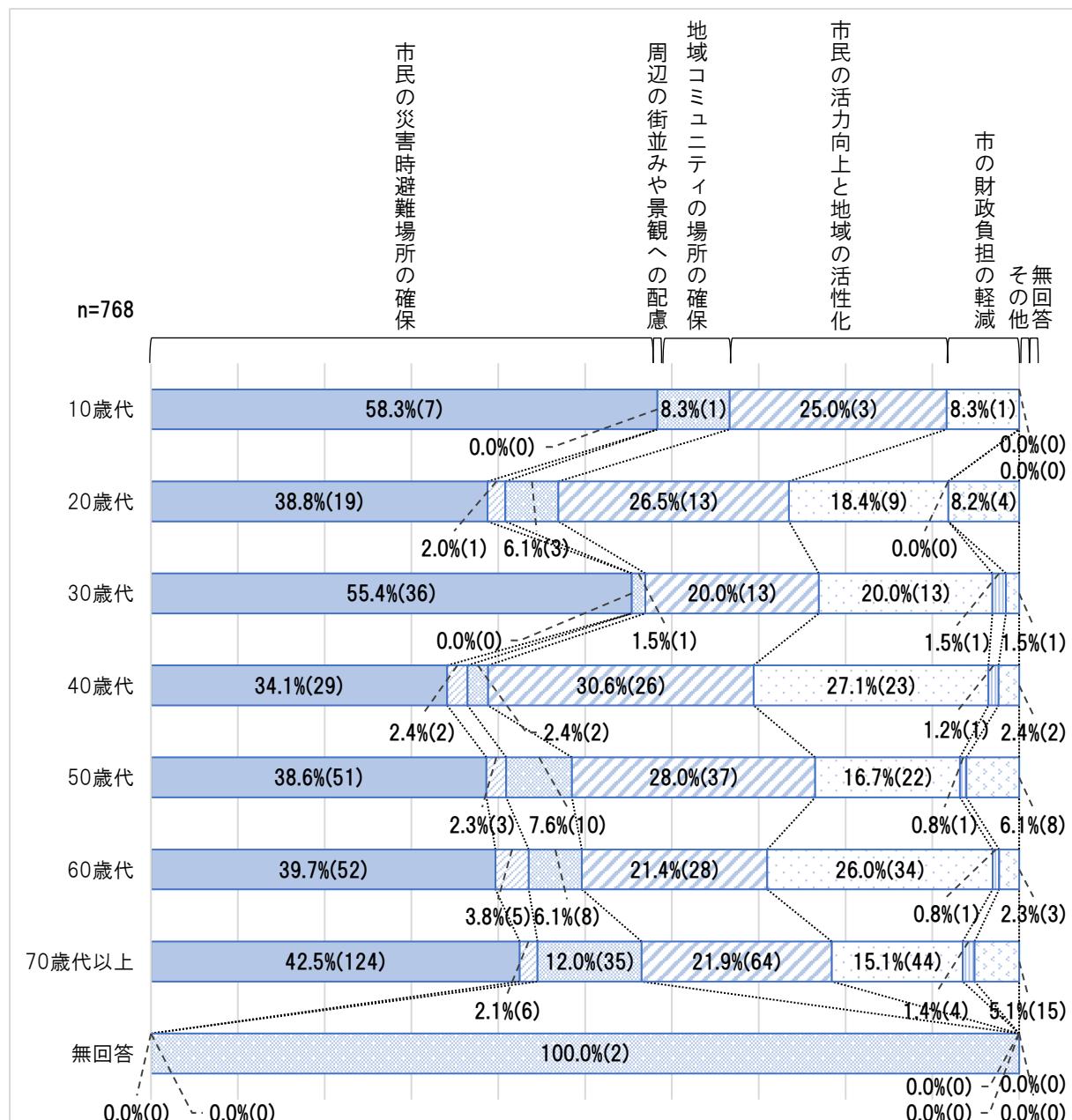


市内全体では、「市民の災害時避難場所の確保」が 41.4%で最も割合が高く、次いで「市民活力の向上と地域の活性化」が 24.0%、「市の財政負担の軽減」が 19.0%となっている。

■ 「その他」の主な内訳

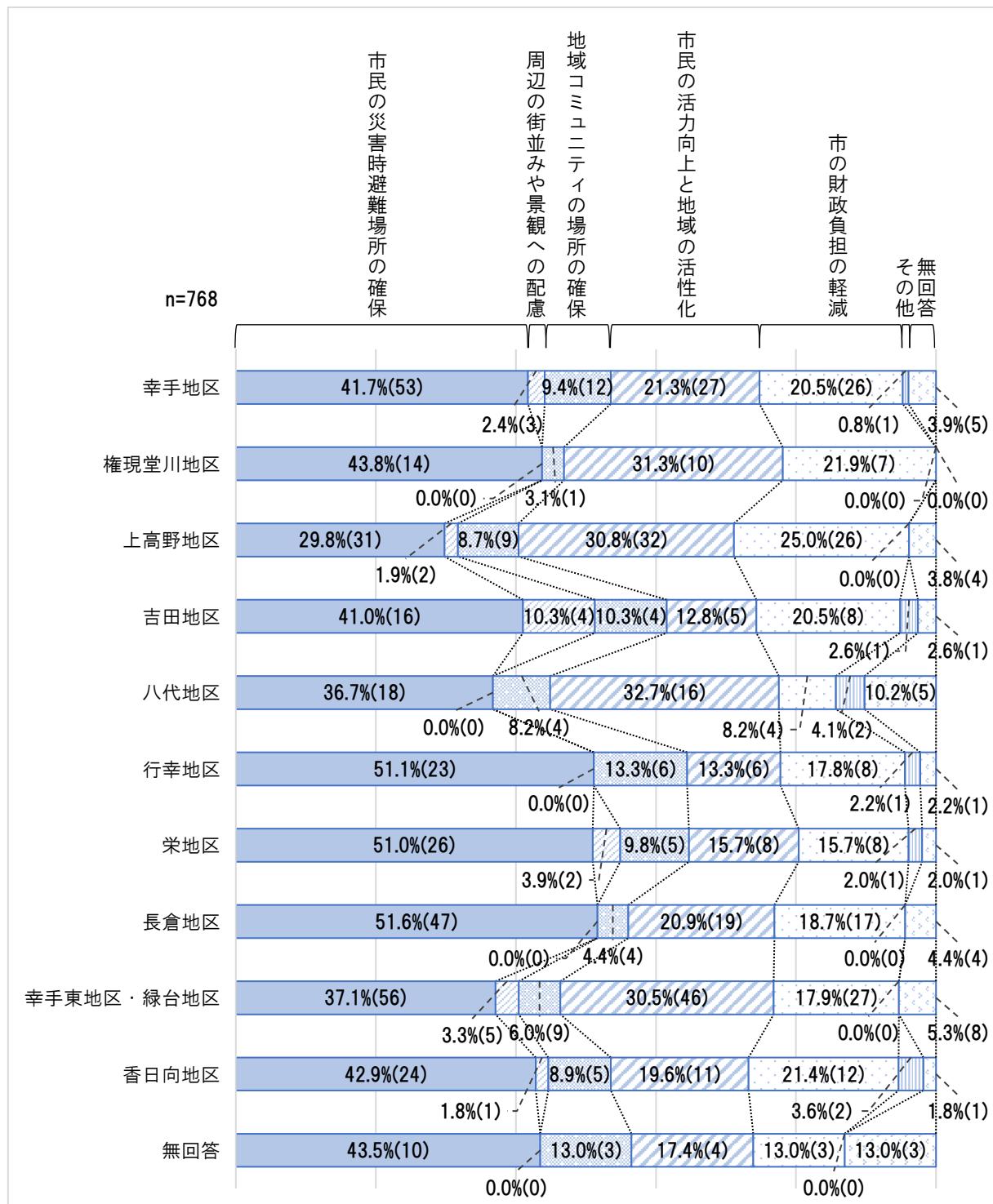
- ・地元雇用が創出できる場…新住民も増やす。空き家・空地の対策を早期にした方が良いのでは？ゴミ屋敷にならない様に行政の対策は大事であると思う。幸手市流にしても良いのでは？
- ・幸手市民が大幅に増える可能性（政策）がないなか新庁舎建設せず、行政の分散化すべきでは。
- ・市の人口増加

①年齢別



年齢別にみると、どの年代においても「市民の災害時避難場所の確保」が最も高い割合となっている。また、全体的に2番目に高い割合となっているのは「市民の活力向上と地域の活性化」であるが、30歳代では「市の財政負担の軽減」が同率であり、60歳代では「市の財政負担の軽減」が4.4%で次点となっている。

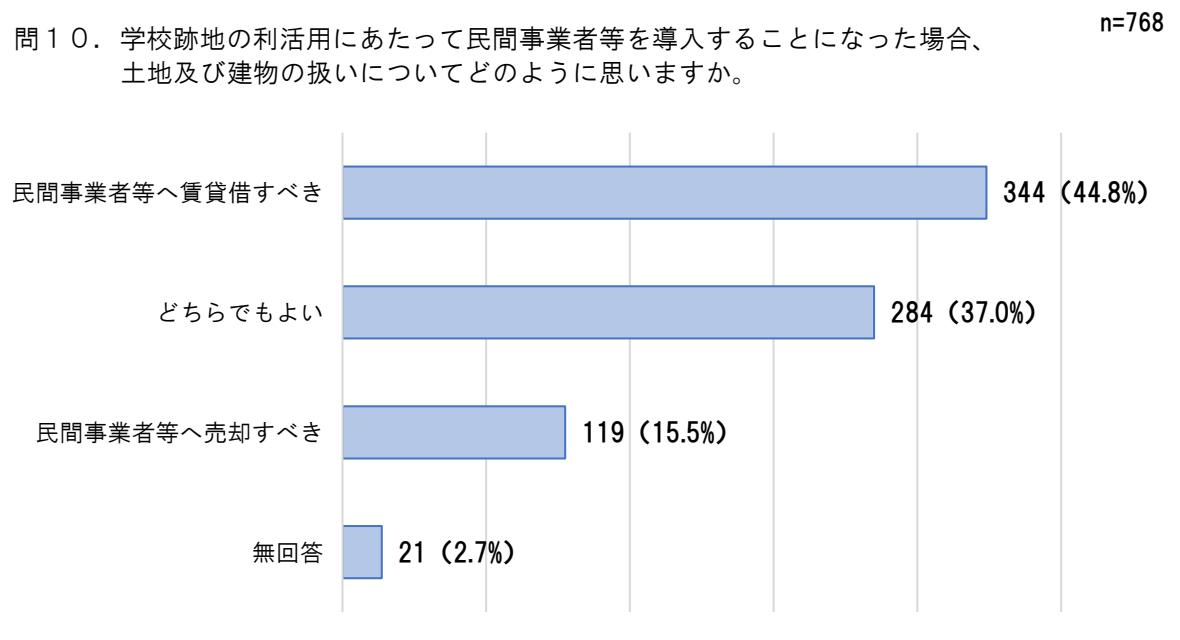
②居住地区別



居住地区別にみると、どの地区においても「市民の災害時避難場所の確保」の割合が高くなっているが、上高野地区においては、「市民の活力向上と地域の活性化」が最も高い割合となっている。また、市内全体と比較して、吉田地区、行幸地区及び香日向地区において、「市民の活力向上と地域の活性化」よりも「市の財政負担の軽減」の割合が高くなっている。

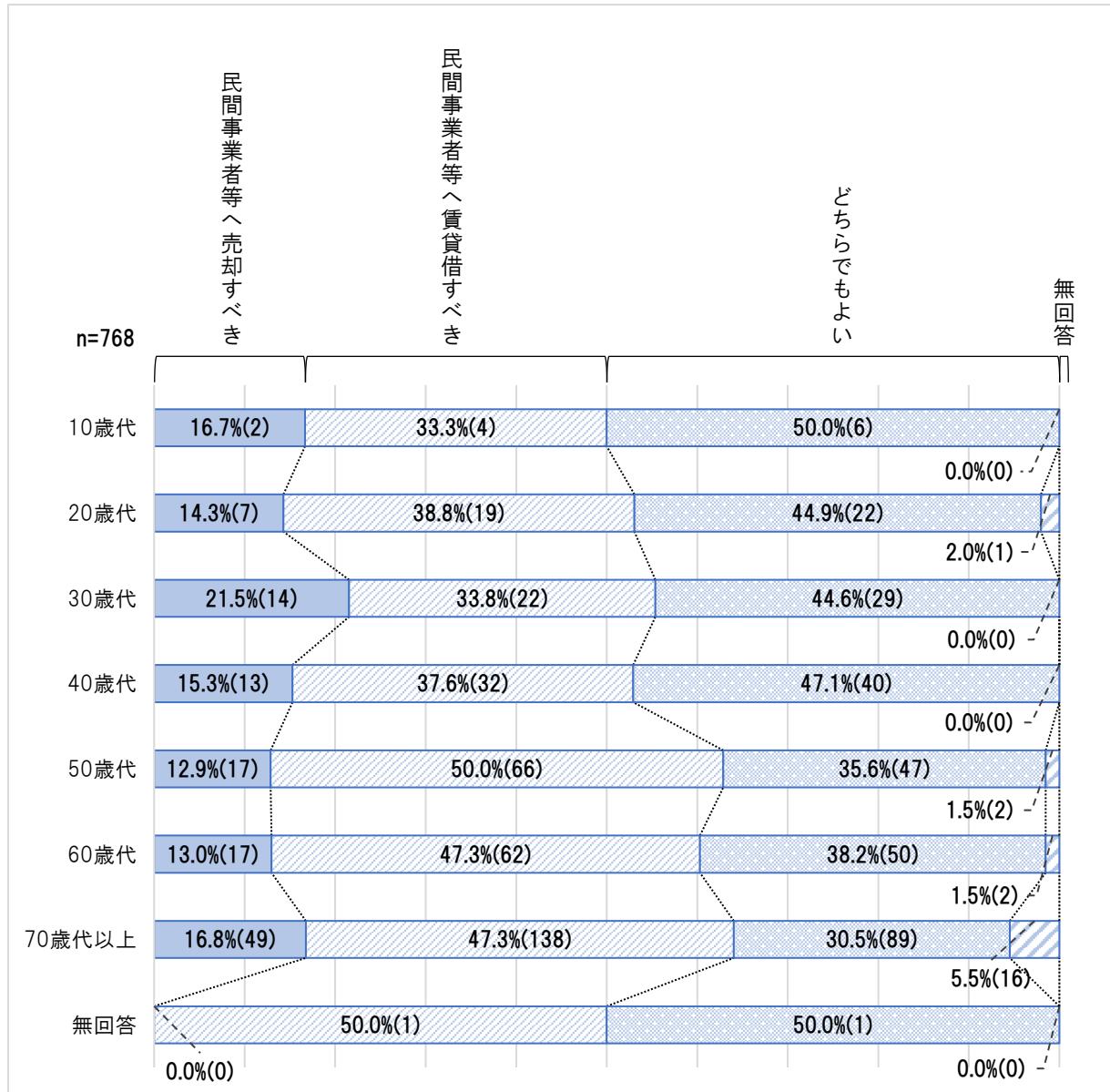
4. 民間事業者等の導入について

(1) 土地の扱い



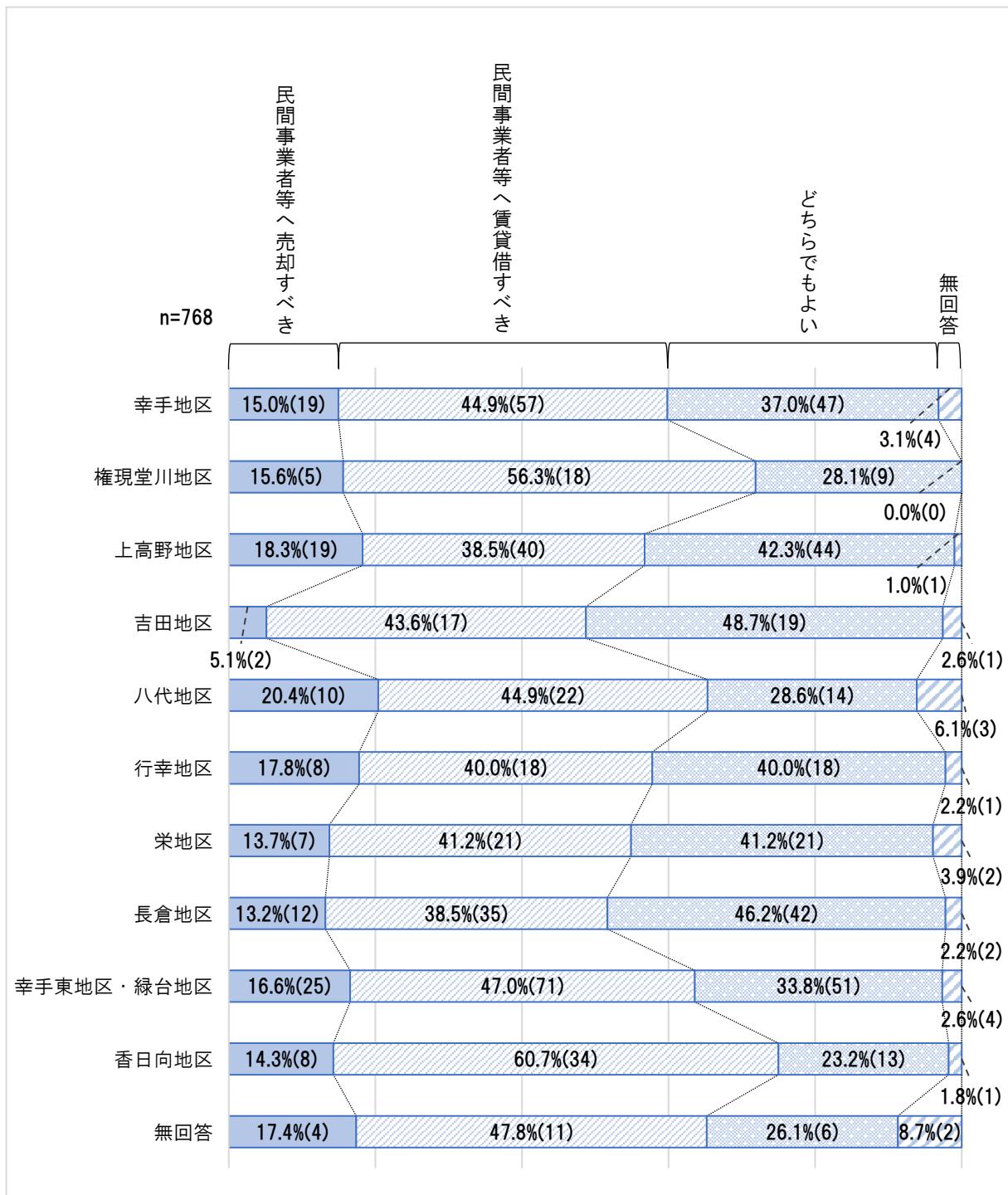
市内全体では、「民間事業者等へ賃貸借すべき」が 44.8%で最も割合が高く、次いで、「どちらでもよい」が 37.0%、「民間事業者等へ売却すべき」は 15.5%で他の回答の半数以下となっている。

①年齢別



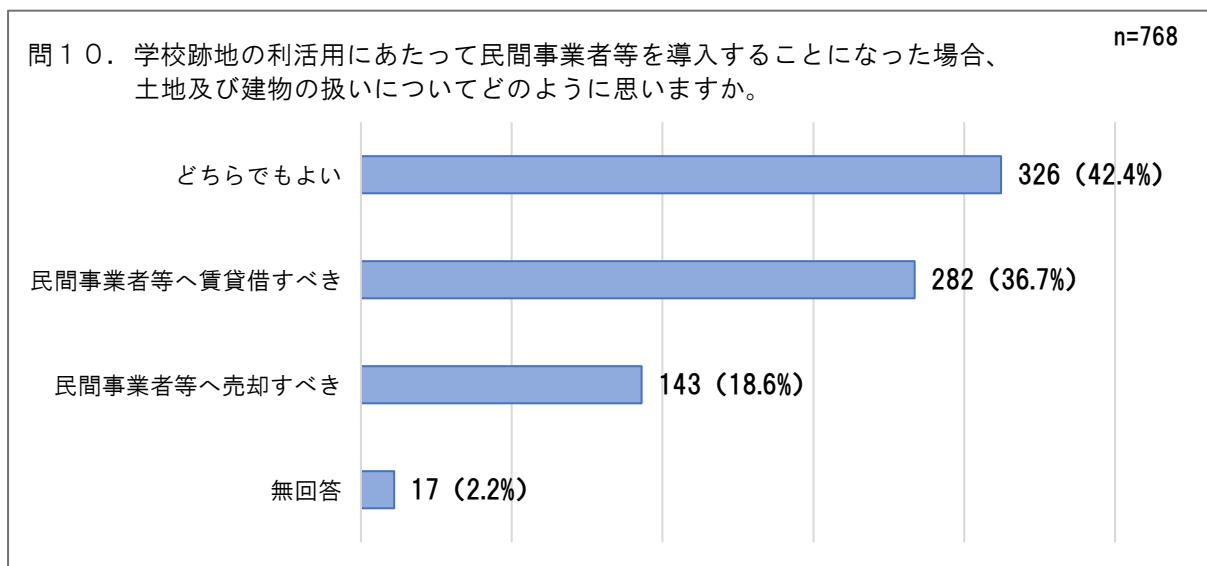
年齢別にみると、どの年代においても「民間事業者等に賃貸借すべき」及び「どちらでもよい」が大部分を占めている。10歳代～40歳代においては、「どちらでもよい」が最も高い割合となっており、50歳代～70歳代以上においては、「民間事業者等に賃貸借すべき」が最も高い割合となっている。

②居住地区別



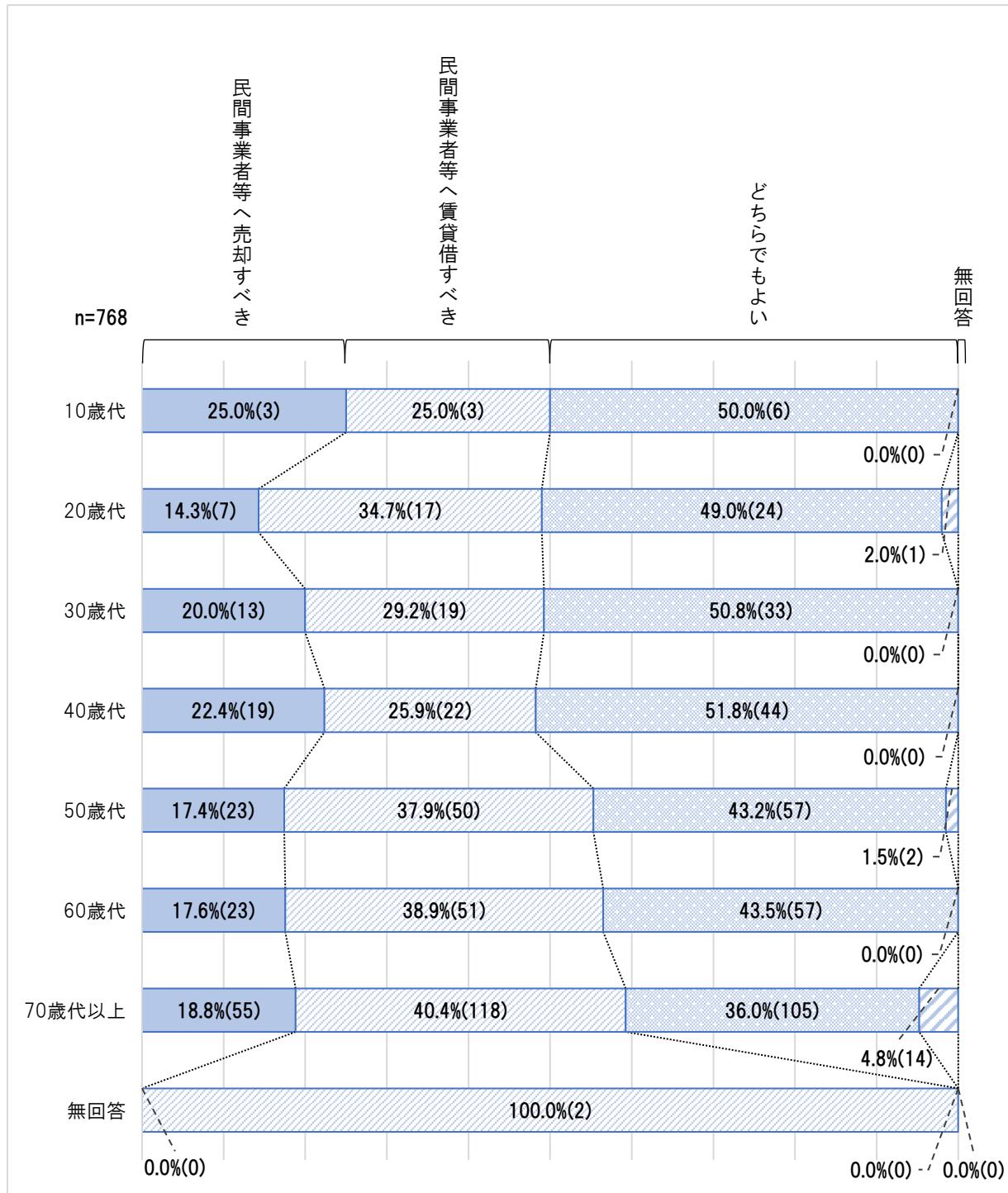
居住地区別では、全体的に「民間事業者等へ賃貸借すべき」及び「どちらでもよい」が割合を大きく占めている。その中で、上高野地区、吉田地区、長倉地区では「どちらでもよい」が最も高い割合となっている。

(2) 建物の扱い



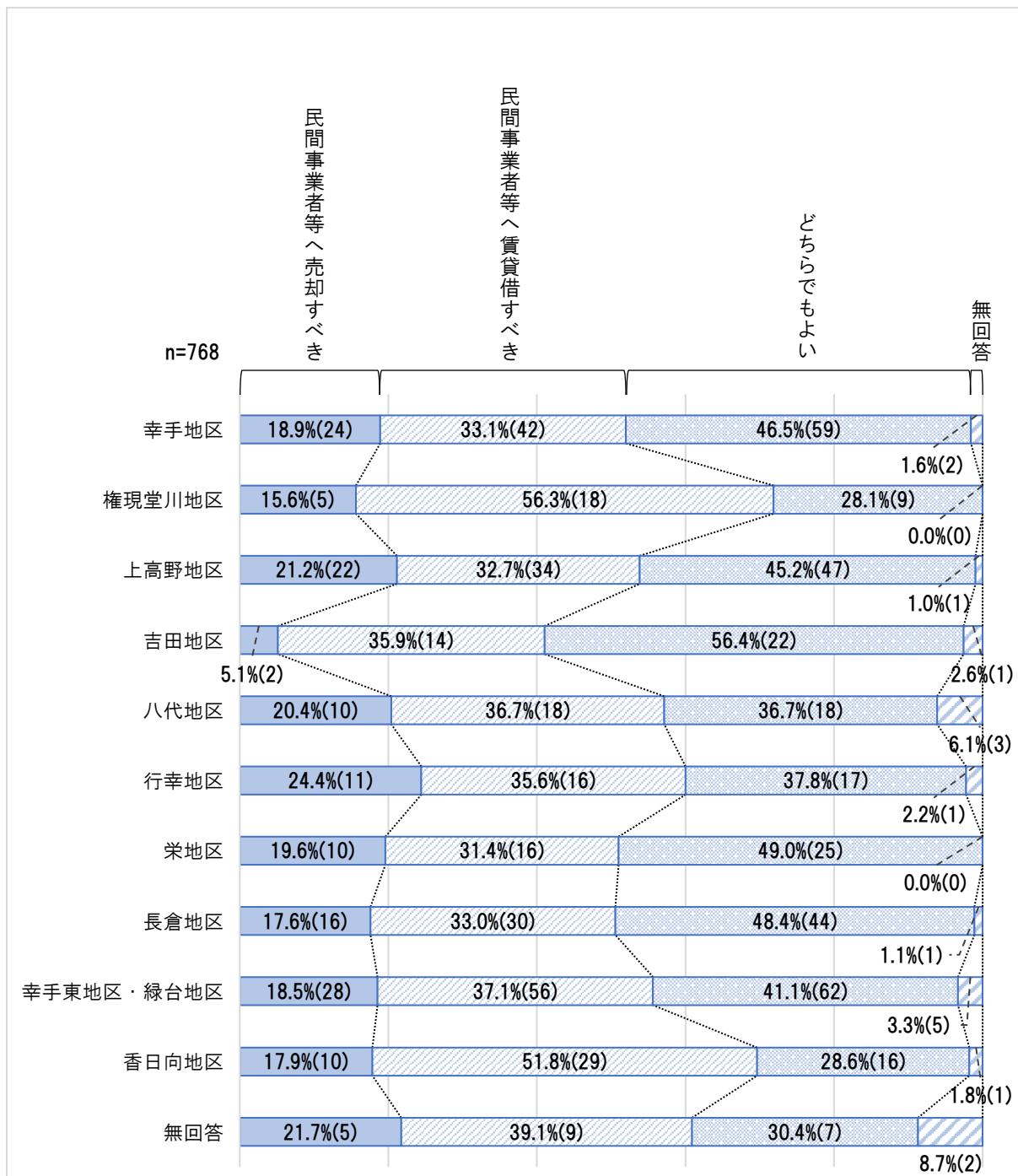
市内全体では、「どちらでもよい」が 42.4%で最も割合が高く、次いで、「民間事業者等へ賃貸借すべき」が 36.7%、「民間事業者等へ売却すべき」が 18.6%となっている。

①年齢別



年齢別にみると、どの年代においても「民間事業者等に賃貸借すべき」及び「どちらでもよい」が大部分を占めている。10歳代～60歳代においては、「どちらでもよい」が最も高い割合となっており、70歳代以上においては、「民間事業者等に賃貸借すべき」が最も高い割合となっている。

②居住地区別



居住地区別にみると、「民間事業者等へ賃貸借すべき」及び「どちらでもよい」の占める割合が高い中で、権現堂川地区及び香日向地区においては、「民間事業者等へ賃貸借すべき」の方が高い割合となっている。

5. その他

学校跡地利活用全般に関する自由意見（主な意見）

- ・せっかく体育館があるならそれを有効活用するべきだと思う。あと、グラウンドが使えたら嬉しいと思う。最近の公園はボール禁止なところが多いので、サッカーや野球が思いっきりできる場を設けるのもいいと思う。
- ・人が集まる施設に活用する場合は、交通渋滞に配慮をいただきたいです。
- ・近年の災害頻発状況を考えると避難所の必要性が高まっていると思う。どのような施設を作るにしても、避難所としての機能を有した構造で、設備・備品を常備した施設が望ましいと考える。
- ・温泉施設が幸手市に欲しい。泊まれる、飲食が出来る、早朝から営業している…市民が安く利用出来るように。退職したら働きにいきます。
- ・駅から離れており、跡地に何を作るにしても利便性と共に交通手段の検討も考えていただきたいです。
- ・幸手にとって、住みやすい町。子供にとって、住みやすい町。住民にとって住みやすい町。
- ・解体後、土地売却。映画等口ケ地。現在のまま民間へ賃貸借。スケートボード等スポーツ施設。体育館を改装し、ボルダリング。大型ショッピングモール。宿泊できる道の駅。格安で泊まれるキャンプ場、RVパーク、農業体験出来る施設。トラック休憩所、企業倉庫の誘致。市役所移転。火葬場。グランドゴルフ場。公園。老人ホーム。スタートアップ企業への施設貸出し。塾。ジム。大型病院。子供食堂、コミュニティカフェ、夏場のクールスポット、移動スーパーの巡回拠点。市の健康相談など既存の事業の出張先。バーベキューが出来る場所。活動作品展示場。図書館。水族館、動物園。特別支援学校。サバイバルゲームの会場。フリー マーケット(イベント)会場。桜まつりのギャラリー駐車場。グランピング。市民農園。ヘリポート。
- ・市民、市外の人、県外からも注目されるような施設が出来るといいですね。有効活用出来るよう頑張って下さい。
- ・工場や物流センターなど、地域の雇用創出を念頭に置いた利活用を切に願います。
- ・民間事業者等の導入にあたって売却するときは転売の禁止と市への無償返還項目を入れる。
- ・地域の人々に貸しだしてほしい。
- ・もし、地域の活性化を長期的に計れる用途があるのならば、民間と市で思い切った利用の方法をとっていただきたい。
- ・外資系のソーラーパネルや外国人経営者が運営する中古車ヤードやリサイクル・廃品回収業者に学校跡地が使われないことを願います。十分精査して市民が不安になるような計画は反対です。
- ・学校跡地の活用方法については、特に強い要望はありませんが、決定内容についての告知は、早く広く行っていただきたいと思います。
- ・幸手のイメージアップにつながるような、話題になるような楽しい場所。老若男女興味をもって足を運べるような場所を作つてほしい。